



史跡保存会発行の「国府史跡のしおり」

『国府史跡のしおり』について

国府史跡保存会長 乾 常美

「国府史跡のしおり」(A5判 本文三十五頁、略図、写真入り) という小冊子が、同史保存会から発行され、一部額価二百円で現在市農協国府支所が販売を取り扱っていることは、案外一般に知られていないようである。

もともこの小冊子は、昭和五十一年七月に刊行された「国府小学校百年のあゆみ」の付録として作られたもの。当時、同誌の編集責任者であった私が、あとがきに書いたように「国府小学校の百年のあゆみが踏まえて来たものが、この国府地区の史跡であったことを、校友の皆さんに再認識してもらい、また後世にも残したかったためである」。

内容はもちろん、国府地区内に

市民が公民館学習やサークルなど、日ごろの文化活動を発表する場として「南国市文化祭」(市文化推進協議会(島村辰彦会長)など主催)が、十月二十日から二十七日までの八日間にわたって市民体育館で開かれ、約千五百人の市民が訪れました。

初日は、鈴江広幸教育長らのあいさつ後、司亭升楽さんが愉快な土佐落語で観客を沸かせました。

第12回文化祭

8日間に

1500人が入場

美術・芸能を楽しむ

今年美術部門(書道、絵画、写真、漫画、生花など十二部門)に三百六十点の力作が出品され、訪れた人たちを楽しませてくれました。また、二十日と二十七日に行われた芸能部門(詩吟、コーラス、民謡、日本舞踊など十一部門)には百九十人が出演。日ごろの練習の成果に盛んな拍手を受けていました。



初出場岡豊高の吹奏楽にも盛んな拍手

ある史跡の紹介ではあるが、単なるガイドブックの形式ではなく、国府村史や新聞の大切な記事から、それぞれの史跡に血の通う抜粋編集を行っているので、この地への来訪者はぜひ一冊をお求め願いたい。

国分寺に詣で、紀氏邸跡を低回し、比江廃寺跡にたずみ、比江山の永源寺や卵塔にまで足を延ばす人々にとって、この一冊は良い手引きとなろう。また国府地区の人々が、この「土佐のまほろば」

をなぜ、千年余の閑守り愛してきたかも、判っていたいただけに思う。

いづらか遅れをとったPRで、会長の私も申し訳ないが、広報紙の一隅を借りるゆえである。

なお、目次は次の項目から成っている。

- ☑ まほろばの記
- ☑ 奈良平安朝文化の遺跡国分寺
- ☑ いしぶみのおかげで(紀氏の旧蹟)

- ☑ 解明される「幻の寺」(比江廃寺塔跡の発掘調査)
- ☑ 山内藩ゆかりの永源寺
- ☑ 家老備後の埜城「乾の大墓」
- ☑ 比江山悲歌
- ☑ 表紙は、故大野龍雄画伯筆の「土佐日記より」